

広報「あしかがみ」コラム「温故知新」の開始にあたり 令和 3 年 7 月

足利市長に就任しました早川尚秀です。この度、このコラムに寄稿することになりました。日々活動をする上で感じたことや、市民の皆様にお伝えしたいこと等について記していきたいと思えます。

まず、このコラムのタイトルを「温故知新」といたしました。足利市は、先人たちの築いた伝統や足利らしさを重んじながら、進取の精神を忘れず、常に挑戦し、新たな価値を生み出してきました。

長い歴史の中で育まれた有望な地域資源を最大限に活かしながら、新しい息吹を吹き込み、いい形で次代へと受け継いでいきたいと思っています。

さて、5 月 13 日に初登庁し、改めて大きな責務と使命を感じました。就任後、毎日のように行政各分野において現在取り組んでいる事業、懸案事項等について議論を重ねていますが、改めて、課題・難題が山積していることを認識しました。丁寧な議論を心掛け、一つ一つ解決していけますように努めてまいります。

例えばコロナ関連では、就任後、ワクチン予約枠の拡大や集団接種会場までの移動への支援、医師会の先生方のご協力による個別接種の実施などに取り組んできました。目の前の課題にも臨機応変に対応していきたいと思えます。

27 日には足利市議会臨時会議において市民の代表である市議会議員の前に立ち、

「所信表明」としてこれからの取り組み姿勢や具体的施策等について述べる機会をいただきました。

コロナ対策、人口減少対策、子育て・教育、産業振興、文化・スポーツ、防災、行政改革等、これまで訴えてきたことを再度精査しながら着実に取り組み、市民の皆様に足利市が動いていることを実感していただけるように、一步一步前進してまいります。

これまでの県議会議員としての活動の中で経験した、「多様な意見を聴き、それらを適切な判断に活かしていく」ということを念頭に、足利に活気を取り戻し誇れるふるさとを築くために力を尽くしてまいります。